

平成 29 年度経営改善に向けた取り組み状況について

1 損益について

(単位:百万円・%)

		28年度 (決算)	29年度 (計画値)	29年度 実績値 (4~12月)
経 常 収 益	1. 医業収益 a	8,185	8,426	6,003
	うち入院収益	5,742	5,854	4,201
	うち外来収益	2,139	2,237	1,639
	2. 医業外収益	878	912	368
	3. 看護専門学校収益	164	0	0
	計 (A)	9,227	9,338	6,371
経 常 費 用	1. 医業費用 b	8,675	8,592	6,219
	うち給与費	4,472	4,728	3,404
	うち材料費	1,906	1,984	1,507
	うち経費	1,255	1,305	875
	うち減価償却費	1,015	546	410
	うち資産減耗費	4	4	3
	2. 医業外費用	521	513	106
	3. 看護専門学校費用	161	0	0
	計 (B)	9,357	9,105	6,325
経常損益(C)(A-B)		▲ 130	233	46
医業損益(a-b)		▲ 490	▲ 166	▲ 216
総収益		9,227	9,338	6,371
総費用		9,357	9,105	6,325
純損益(E)(C-D)		▲ 130	233	46

※今後、平成 30 年 1~3 月において、昨年度並みの実入院患者数を確保できれば、平成 29 年度での黒字化は達成できるものと考えられ、別紙の取り組みで、より確実なものとしていく。

2 BSについて(単位:百万円)

	H28期末	H29期末(見込)
資産の部	12,184	11,645
資産合計	12,184	11,645
負債の部	12,497	11,565
資本の部	△ 313	80
負債・資本合計	12,184	11,645

3 現金預金について(単位:百万円)

	H28期末	H29期末(見込)
現金及び預金	1,292	1,156

## 2 今後の課題について

今後の課題	現状	対策
(1) 実入院患者の確保	① 実入院患者が 12 月現在で前年に比べ、135 人減少	①-ア 地域連携のさらなる強化
	② がん患者数の減少 前年に比べ約 200 人減少の見込み ⇒放射線治療休止の影響	②-ア 診療科の特徴 PR
		②-イ 最新鋭リニアック(放射線治療装置)導入に伴う放射線治療再開による集患
(2) 費用の削減	①材料費 76,000 千円増加見込 (平成 29 年度決算値) 経費 23,000 千円減少見込 (平成 29 年度決算値)	②-ウ 外来化学療法件数の増加
		①-ア 後発医薬品の積極的採用
		①-イ 診療材料の共同購入
		①-ウ 必要度・緊急度を勘案した修繕の予算執行

### (1) 実入院患者の確保に向けた取り組み

#### ①実入院患者数の減少

実入院患者数は前年同期と比較して 135 人減少しており、新規入院患者を確保するための取り組みを要する。

実入院患者数の推移

	4～12 月
H28	6,247
H29	6,112

中でも、平成 29 年 4 月より機器更新のため放射線治療装置を停止している影響で、がん入院患者が減少している。

#### ①-ア 地域連携のさらなる強化

紹介・逆紹介の推進に取り組み、前年同期に比べ、紹介患者数、逆紹介患者数はともに増加しており、さらに紹介患者の増加に向けて取り組んでいる。

単位:人	H28.4～12	H28 計	H29.4～12	H29 見込
紹介患者	7,538	9,908	7,706	10,274
逆紹介患者	5,514	7,480	6,081	8,108

H29 年度の紹介患者数は、前年度と比較して 366 人増となる見込み。本院の入院患者の入院経路は紹介入院と救急入院が約8割を占めており、紹介患者数の増加による新規入院患者の増加を図っていく。

紹介患者・逆紹介患者をさらに増加させるための施策を提案、実施する院内ワーキンググループ「紹介・逆紹介推進プロジェクト会議」を立ち上げ、さらなる紹介・逆紹介推進に向けた施策の検討・実施を進めている。

⇒逆紹介の推進により、新たな紹介患者の増加という、好循環をつくっていく。

## ② がん患者数の減少

がん入院患者数は、前年度と比べて全体で 215 件減少する見込み。

放射線治療装置更新作業の影響により本院のがん入院患者のうち、主に消化器内科、外科、産婦人科等で減少している。そのため、平成 30 年夏の放射線治療再開に向け、がん患者の集患に向けた取り組みを進める。

	H28	H29(見込)
がん入院患者数	1,293	1,078

### ②-ア 診療科の特徴 PR

地域に PR するため、出前講座で配布できるリーフレットを作成。前年度と比較して手術件数の減少が見られる診療科(消化器内科、産婦人科)について、所属している医師や診療の特徴を地域に伝えられるツールとして、本院待合いや出前講座で配布し周知している。

### ②-イ 最新鋭機器による放射線治療の再開

平成 29 年 4 月より停止している放射線治療は、最新鋭の放射線治療装置への更新作業完了の後、平成 30 年夏ごろに再開予定となっている。再開に向けて地域を対象とした広報誌等での PR をし、停止中に減少したがん患者の集患を図る。

### ②-ウ 外来化学療法件数の維持

・平成 28 年 10 月に外来化学療法室の拡充(6 床⇒11 床)したことにより、外来化学療法件数は増加しており、今後も積極的に取り組んでいく。

	4～12 月	年度合計
H29	1,551	2,050
H28	1,305	1,753

外来化学療法、がん相談支援など、包括的がん医療センターの機能を強化することにより、がん患者とその患者家族を総合的にサポートする体制のさらなる充実を図る

**・がん患者から選ばれるための地盤を強化⇒新規入院患者を獲得する**

こうした取り組みにより、新規入院患者の確保を図っていく。

実入院患者数	4～12 月	1～3 月	合計
H29	6,112	2,064	8,176

## (2) 費用の削減について

### ①-ア 後発医薬品の積極的採用による薬品費増嵩の抑制

薬事委員会主導による後発医薬品と先発医薬品の置き換えに取り組む

単位: %	H28.3	H29.3	H30.3(見込)
後発医薬品使用割合	79.27	91.03	93.00

※国(厚生労働省)は、数量ベースシェアで 80%を目標としている。

### ①-イ 診療材料費の共同購入の実施

物品管理委託業者を通じた全国規模での参画医療機関による一部診療材料の共同購入を実施している。

### ①-ウ 修繕計画の策定等による経費の削減

修繕計画に基づく必要度・緊急度等を勘案した修繕を実施

単位: 千円	H25(決算)	H26(決算)	H27(決算)	H28(決算)	H29(見込)
経費	1,317,840	1,267,242	1,243,449	1,254,715	1,232,000
削減額					

(H25 比較)	—	△50,598	△74,391	△63,125	△85,840
----------	---	---------	---------	---------	---------